
勇者一行旅日記

さくま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者一行旅日記

【Zコード】

Z7322Y

【作者名】

さくま

【あらすじ】

これは鈍感イケメン勇者と不幸で苦労人な魔法使いとヤンデレ僧侶とガチホモ戦士のパーティーがそれぞれ旅の途中で書いた日記である。

勇者の日記

今日、16歳の誕生日を迎えて魔王を倒す旅にでることになった。幼馴染のお姫様や友達の公爵令嬢、いつもタダで食事をさせてくれる酒場のお姉さん、木刀での訓練だけど僕に剣を教えてくれた女騎士さん、いつも僕のお世話をしてくれるメイドさんの仲良し5人組が旅を中止するようになると僕を説得しに会いに来てくれた。みんな身寄りの無い僕に優しくしてくれた大切な人たちなので決心が鈍る。しかし、魔物に殺された両親の仇を討つための旅は止めるることは出来ない。とはいえ、一人では不安なので親友であり唯一の男友達である魔法使いを旅に誘うことにする。魔法使いの家に行き旅に誘うとすぐOKの返事をくれた。やっぱり持つべきものは親友だ。職業斡旋所に行き旅の仲間を募集すると、すぐに美人の僧侶さんと鋼のような筋肉をもつ戦士さんが仲間になってくれた。僧侶さんは熟練の冒険者らしく、旅にも馴れているらしい。レベルは教えてもらえなかつたが旅に馴れている人がいると心強い。国を出るとき、仲良し5人組が見送りに来てくれた。これから僕は長い旅に出る。しかし、どんな困難があるうと仲間達3人と一緒に絶対魔王を倒してこの国に帰つてくる!!

魔法使いの日記

今日、俺の天敵が誕生日を迎えて魔王を倒す旅にでるのでこの国からいなくなる。やつべ、超嬉しい！テンションの上がり具合がハンパない。家にでるゴキブリすらかわいく思える。多分、今日が生ま

れてきてから最高の日になるだろう。思えばあいつには嫌な思いばかりさせられた。勇者に惚れているお姫様や公爵令嬢には勇者と一緒に歩いていただけで羽虫の「」と扱いをされ理不尽に殴られたことは数え切れないほどあるし、酒場にいくと何故か勇者の分の食事代を請求されるし、女騎士さんとの訓練では俺だけ真剣だし、メイドさんには無視をされている。お姫様、公爵令嬢、酒場のお姉さん、女騎士、メイドの5人は勇者ハーレムとして有名で勇者以外の国民は皆知っている。勇者はこいつら5人のことを仲良しだと思っているらしいが、実際は牽制し合っているだけで全然仲良しではない。クソビツチどもめ！勇者と一緒にこいつらも死ねばいいのに……。俺が家で勇者が旅で死ぬよう祈っていると、勇者が家にきて一緒に来てくれとふざけたことを言つてきた。俺が断りの返事をしようとするどこからか殺氣を感じた。慌てて周囲を見渡すと勇者ハーレムの5人がそれぞれ武器を持ち俺の事を狙っていた。やつらの殺し屋の「」とき無機質な目が明確に語つている。「断れば殺す」と。どうやら俺に選択肢はないようだ。勇者と職業斡旋所にいき美人の僧侶と筋肉質なオッサンを仲間にした。僧侶が粘つくような目で勇者のことを見ているのはまだわかる。大方、こいつも勇者に惚れたのだろう。しかし、オッサンまで熱のこもった視線を勇者に向けているのはどういふことか……。国を出るとき勇者ハーレムが見送りにきていた。勇者の見えないところで、僧侶と勇者ハーレムのメンバーが「てめえ、勇者に手をだしたら殺すぞ！」「あ～ん？やつてみるやアバズレ共が！～」と胸ぐらを掴みあつて、光景はきっと俺の幻覚なのだろう。

今日、私は旅の途中で立ち寄った国の職業斡旋所で運命の出会いを

僧侶の日記

した。私の運命の王子様の名前は勇者君！……綺麗な金髪に女の子のような中性的な顔、ときおりこぼれる爽やかな笑顔がもうドストライク！！！！！一日ぼれした私はすぐに勇者君に話しかけ仲間にしてもらつた。パーティには勇者君以外にもゴミが一人いて自己紹介されたが、勇者君以外に興味はないのでよく覚えていない。国を出るとき、メスブタが5匹もいて私に脅しをかけてきた。軽くあしらつておいたが勇者君が私以外のメスブタ共にたぶらかされたら大変だ。これからは勇者君から片時も目を離さないようにしなければ……。ユウシヤクン、ゼツタイニワタシノモノニシテミセル。

戦士の日記

職業斡旋所。ここは私にとつて天国のような場所だ。大量の筋肉質な男達が一部屋に集められているせいいか汗臭い芳醇な男のフェロモンが漂つていて。油断すると私のムスコが元気になりそうだ。私が日課のいい男探しをしていると一人の少年が入ってきた。片方の少年はどこにでもいるような顔だが、もう一人の少年は少女のごとき容姿をしている。いくら男でも女のごときなよなよした容姿をしている男に興味はない。2人は勇者と魔法使いと名乗り、魔王を倒すための旅の仲間を募集しているらしい。旅はいい。風呂に入る機会が少ないので、私の大好きな男臭い濃厚でいつまでもかいでいたいと思うような汗臭い体臭が好きな時に嗅げる。それに四六時中一緒にいるから男の良さを教えられるチャンスが多い。現に私は3人程度で男の良さに目覚めさせた。だが、この少年達には男臭さが足りない。どうせ旅にでるならもつともむさい筋肉をもつた男と旅に出た。しかし、私は気づいてしまった。勇者と名乗る少年が引き締まつた筋肉を持つていてる事を。あれがいわゆる細マッチョというやつか……。何と言うバランスのいい筋肉だ！筋肉を見続けてきた私には

服の上からでもわかる。引き締まつた上腕二頭筋、鋼のようにはり硬い腹筋、むしゃぶりつきたくなる様なたくましい胸板。まさに理想的な体だ。私は勇者の体田当てで彼らのパーティに入ることにした。まあ、たまには少年と するのもいいか。勇者はもちろん魔法使いにも旅の途中で男の良さに田覚めてもらひつじにしてよつ。

ステータス

勇者 L V 1

魔法使い L V 1

僧侶 L V 9 3

戦士 L V 2 6

勇者の日記

今日、初めてモンスターを倒した。相手はゴブリンといつこの近辺では最弱といわれるモンスターだけど、初めてモンスターと戦つた僕にとっては十分な強敵だった。僕の攻撃は全部避けられるし、ゴブリンの攻撃をまとめてくらえれば今の僕では間違いなく負けてしまうだろう。女人である僧侶さんを前線で戦わせるわけにはいかないし、魔法使いは僕同様初めての実践なので恐怖に震えてうつむいているし、戦士さんは後衛である魔法使いと僧侶さんをゴブリンの攻撃から守っているので援護は期待できない。だから僕がこいつを倒すしかない！そんな風に考え事をしながら戦つていたせいかゴブリンの攻撃が僕の体に当たつてしまつた。気絶するほどではないが物凄く痛かった。僕が反撃しようと立ち上がり剣を振るおつとしたらゴブリンがいきなり倒れた。ゴブリンの傍にいき確認するとどうやら死んでいるみたいだ。どうしてゴブリンが死んだのか悩んでいると僧侶さんが「きっと勇者君の攻撃が今頃効いたんですよ！」と声をかけてきた。僕の攻撃が当たつた覚えはないのだが…。でも、熟練の冒険者である僧侶さんが僕の上半身の服を脱がし、傷を触りながら回復呪文をかけてくれた。回復呪文は直接傷に触りながらかけた方が効果は高いらしい。僧侶さんには教えられることが多い。しかし、ゴブリンを倒せたとはいえもつと強くならなければ魔王を倒すことなんて夢のまた夢だということが改めてわかつた。仲間達には迷惑をかけられない。そういえば、僧侶さんの息は荒いし戦士さんは座りこんでじつとうつむいている。ひょっとして僕が気づいていないだけでさつきの戦闘で2人には大きな負担をかけたのかもしない。もっと強くならなければ。

旅に出て2日目。初めてモンスターに遭遇した。初めてゴブリンを見たが想像していたよりキモくて何かヒいた。勇者はゴブリンと戦闘して苦戦していた。最弱のゴブリン相手に苦戦しているのに魔王を倒すとかどんだけ身の程知らずだよ、プギヤーと腹筋がねじれるかと思うほど笑いがこみ上げてきた。うつむいて誤魔化したが笑いを完璧に我慢できていたかは自信がない。勇者の攻撃は尽く、ゴブリンに避けられていた。俺はオツサンを盾にしながら、『いけ!! ゴブリン』『そこだ!! 勇者を殺せ!!』と心中でゴブリンを応援していると勇者がゴブリンの攻撃をともにくらった。よくやったゴブリン。マジでナイス！ 俺が密かにガツツポーズをしていると急にゴブリンが倒れ絶命した。勇者はゴブリンの死を確認し、何が起ったのかと悩んでいるが俺は見逃さなかつた。今まで勇者が戦っている姿を恍惚とした表情で眺めていた僧侶が、勇者が攻撃をくらった瞬間にゴブリンに向かって落ちている木の枝を投げたことを。いくら最弱とはいえ仮にもモンスターと呼ばれる存在を木の枝を投げただけで絶命させるとは…。この女、ひょっとして物凄く強いんじゃ…。出来るだけこの女を敵に回さないようにしよう。僧侶が勇者の服を脱がして体に触りながら回復魔法をかけているのだが、服を脱がす必要も体にさわる必要も無いことだけは自信をもつていい。僧侶は発情したメスゴリラのような表情で勇者の体を撫で回しているが、何故かオツサンも座りながら興奮したような表情で僧侶が勇者に治療という名の愛撫をしている光景を眺めていた。もうやだ、このパーティー。

近くに落ちていた木の枝をゴブリンに向かって投げると、枝はゴブリンの心臓を貫通してどこかに飛んでいった。ふん、私だけの勇者君を傷つけたのだ。死は当然の報いだ。さて、勇者君を治療しなければ。回復魔法は傷に触りながらかけた方が効果が高いという私の嘘を勇者君はあっさりと信じてくれた。もう！勇者君たら純真でか

わいいぞっ！！でも、あんまり純真すぎるヒタチの悪い泥棒ネコに騙されるかもしれないから私がしつかり見ておかなければ。勇者君の美しき肉体を好きなだけ触れた幸せな一日だった。

戦士の日記

勇者がゴブリンと戦っている光景から私は目が離せなかつた。ゴブリンの攻撃をよけるたびに服がチラチラめくれ、そこから見える引き締まつた筋肉。まさに絶景とはこのことだ。いや、それだけじゃない！勇者のキュウとひきしまつた小ぶりの尻が動くたびに俺を誘うように踊つている。いつかあの尻に俺の『ピー』を『ズッギュン』して、『ズガガーン』してやる。（あまりの内容に一部規制しています。）そういえば、戦闘が始まつてから魔法使いが俺の後ろを離れない。はつ！まさかこいつ、戦闘のどさくさにまぎれて俺の尻を狙つているのか？まいつたな。攻めるのは馴れているが攻められるのは馴れていない。しかし、魔法使いも俺の同類だったとは……。いや、まだ同類だと判断するのは早い。カミングアウトして、違つていたら魔法使いには確實に逃げられてしまうだらう。まずは外堀を埋めて逃げられないようにしてからさりげなく同類が確かめていこう。俺が今後の方針を固めていると勇者が上半身を脱ぎだした。ウホッ、何という筋肉だ！いい！いいぞ！まさかこんなにも早くお宝映像がみれるとは。当分夜のオカズには困らないだらう。今も私のムスコがMAX状態になつていてる。しばらく立つことができなかつた。まあ、別の部分はタッいていたのだがな（笑）

勇者の日記

故郷を旅立ち4日目、ようやく宿があるような町にたどりついた。僕が寝ている間に大怪我を負った戦士さんにもこの4日間の料理や洗濯は全部やつてくれていた僧侶さんにも樂をさせてあげられる。旅の初心者で家事が一切出来ない僕や魔法使いがこの町までこれたのは間違いなく僧侶さんのおかげだ。考えてみればこの4日間、僧侶さんは4人分の食事を作り4人分の洗濯をするという重労働をしているのだ。本当に僧侶さんは頭が上がらない。何度も僧侶さんに僕が洗濯をやりますよと言つたが、「私が好きでやつてることなんですから勇者君は気にしなくていいんですよ。それに勇者君は私の下着も洗つてくれるんですか?」と言われてしまつたら何も言つことが出来ない。僧侶さんは美人な上に家事も出来て性格もいいところ正に才色兼備という言葉がピッタリな人だ。料理もとてもおいしい。そういえば、魔法使いは僧侶さんの顔を一切見ようとしない。ひょっとして、僧侶さんが美人過ぎるから照れているのかな?昔から奥手なやつだつたし。そういえば、朝起きたら家から持つてきた下着が一枚無くなっていた。どうやら旅の途中でなくしてしまつたらしい。この町で補充しなければ。

魔法使いの日記

よつやく宿があるような町についた。これで洗濯や料理から一時的にだが解放される。僧侶は勇者に「みんなの料理や洗濯は私がやります!」と宣言していたが、当然のように僧侶は勇者と自分の分の

料理や洗濯しかしてくれない。勇者が寝た後、泣きながら自分の服を洗つたことは記憶に新しい。3日目の夜、俺がテントを抜け出し服を洗おうとしたら世にもおぞましい光景が目に入ってきた。なんと僧侶が勇者の下着（使用済み）を頭からかぶり恍惚の表情を浮かべ笑つているのだ。あまりの恐ろしさに俺はすぐさまその場を離れ見なかつたことにした。その夜以来、おれは僧侶の顔を見ることが出来ない…。今日の朝、何故かオッサンが大怪我を負つていた。怪我の理由を聞いたが何も答えようとしない。昨日の寝る前までは確かに無傷だつたはず。一体、俺が寝ている間に何があつたのか…

僧侶の日記

とつとう宿がある町にたどりついてしまつた。これでは勇者君の洗濯や料理が出来ないではないか。旅に出てからの食事を思い出すと今でも自然と笑みがわいてくる。私の血入りスープを飲む勇者君、私の爪を細かく刻み生地に練りこんだパンを食べる勇者君、私が綺麗に舐めた食器で食事をする勇者君…。思い出すだけで鼻血が出るくらい興奮する。私の一部が勇者君の体に入り勇者君の血や肉になるとおもうだけでもう…。それに食べた後、「おいしかったですよ、僧侶さん。また作ってください。」と笑顔で勇者君に言われたとき、私は生まれてきた事を心の底から喜んだ。待つててね、勇者君。近い内に私といつご馳走を心ゆくまで食べさせてあげるから。そういうえば、昨日の夜に勇者君にまとわりつく害虫その2が何故か勇者君の洗濯前の下着にまとわりついていた。しつかりと追い払つておいたが、またまとわりつくかもしれない。殺した方がいいのかしら…？私が害虫対策に悩んでいると、害虫から守つた勇者君の下着からこの世のものとは思えない極上の香りがした。私は周囲を確認した後、そつとそれを頭からかぶり至福の笑みを浮かべた。ああ、

この部分が勇者君の『ジー』に一日中当たっていたんだ。それならこんなにいい匂いがして当たり前だ。もう、勇者君たら！下着だけで私を狂わせるなんて罪作りな人！今は下着ごしにだけどいつか直接匂いを嗅いじゃうからね！！ちなみに、その下着は私の勇者君口レクションで一番のお宝になりました！

戦士の日記

私はこの旅で自分の不幸を嘆かずにはいられない。今まで旅をしていた場所は全て近くに川が流れていた。おかげで、一日中着ていたせいでたまりにたまつた芳醇で濃厚な汗の匂いがついた服が一日ごとにリセット（洗濯）されてしまう。私のイライラは溜まりっぱなし。何故洗濯なんかをするのだ！！！これでは旅をする意味がないではないか！！！ところが、3日目の夜に神様は私にお宝をくれた。な、なんと勇者の洗濯前の下着を発見したのだ。ああ、いい匂いだ。一日中はいていたせいか、汗の臭いと共に男の股間の臭いが混ざり絶妙の香りがしている。本来なら、下着は3日目のものがベストだ。だが、こんなお宝を目の前にて我慢などできない！私が宝物に手をのばした瞬間、気が付いたら地面に寝ていた。私にも何が起きたか解らない。だが、目の前に修羅がいたことだけは確かだ。修羅は私が視認出来ない程のスピードで動き、痛みを感じたときには私の右腕の骨は全て折れていた。しかも丁寧に指の骨まで一本一本まで。私はレバーワークの戦士だ。その私が視認できないほどのスピードで動き、一瞬で右腕は破壊するあの化け物（僧侶）はいったい何者だ！？しかし、こんなことぐらいで私はあきらめない！！必ず下着は手に入れる！！

3 日田の夜の時系列

勇者が僧侶に渡し忘れた洗濯物をテントの外に置いておく

戦士、勇者の下着を発見。しかし修羅に撃退される

僧侶が害虫（戦士）を撃退。戦利品（下着）を頭にかぶる

魔法使いが僧侶の奇行を目撃。見なかつたことに

勇者の日記

モンスターとの戦闘にも大分馴れてきた。2日目に散々苦労して倒したゴブリンも楽に倒せるようになつたし、僕は確実に強くなつてゐるようだ。でも、不思議なことに僕がモンスターからダメージをくらつた後、気が付くと戦つていたモンスターはいつも死んでいる。僧侶さんには全部僕の力らしい。実感がないし、納得も出来ないが僧侶さんがそういうのだからきっとそうなのだろう。最近気づいたのだが、魔法使いはモンスターとの戦闘になるたびに涙目になつて震えている。普通の人ならモンスターに恐怖して震えていると思うだろう。でも、親友の僕にはわかる。魔法使いはモンスターが死ぬのを悲しんでいるのだ。僕の親友は誰よりも優しい奴だから。例えモンスターといえども生き物が死ぬのが嫌なのだろう。今日もモンスターの死を悲しんでいた親友の背中に僧侶さんが優しく両手を置き、慰めの言葉をかけていた。親友のいい所を再確認できたとてもいい日だつた。魔法使いという親友がいることを僕は誇りに思う。

魔法使いの日記

今日も勇者に攻撃をくらわせたモンスターは僧侶が光速で投げる石や木の枝によつて殺されている。石や木の枝でモンスターを殺すとか化け物かよ…。僧侶つてもしかしたら魔王より強いんじやねえのと最近思つようになった。僧侶の奇行を見て以来、パーティーから追い出すために何度も勇者にチクリとしたのだが、その度に殺氣

を感じるので最近では諦めている。そのせいで化け物に田をつけられてしまい、モンスターとの戦闘の度に骨が砕けんばかりの力で両肩を掴まれ、耳元で「てめえ」、勇者君に余計なこと言つたらどうなるかわかつてんだろうな?」とか「あのモンスターあつさり死んだな。お前の死に様もあんな感じなのかね~」とか囁かれててしまつては泣いてしまうのも仕方がないことだらう。オッサンは俺同様、僧侶を見て震えていた。多分、オッサンも僧侶に脅されているのだろう。同じ僧侶の被害者という意味で、俺とオッサンは多分同じだからガンバローゼと労いの言葉をかけておいた。

僧侶の日記

最近、勇者君にまとわりついて害虫その1がつさつたい。本当は殺したいのだが、勇者君は害虫1のことを親友だと錯覚しているようなので勇者君のために我慢している。害虫のようなどうでもいい存在にも優しくするなんて勇者君は優しいな。そんなところも大好き!でも、勇者君に余計なことをいわないように害虫1には釘を刺しておぐ。最近では誠意をこめた説得を繰り返したせいか害虫が勇者君に余計なことをいう気配はない。しかし、私も丸くなつたものだ。害虫の体にさわり声をかけるなんて昔の私なら考えられない。昔なら問答無用で殺している。恋が女を変えるというのは本当のようだ。こんな風に優しくなれたのも全部勇者君のおかげだ。勇者君、愛してるやつ!~!

あの夜以来、勇者の下着を僧侶に奪われるという悪夢が頭の中から離れない。だいたい、なぜ女というこの世界でもつともいらない生き物がパーティーにいるのだ。女は私の視界にはいるな！！だが、僧侶は異常な戦闘力を持っている。悔しいが、私の実力では手も足もでない。かといって私の怒りがおさまるわけではなく、せいぜい戦闘中に背後から睨みつけことしか出来ない。今日もモンスターとの戦闘中に僧侶を睨みつけ、怒りのあまり震えていると魔法使いが衝撃の言葉をかけてきた。まさかの力ミングアウト！！なぜこのタイミングで！？ひょっとして今晚一緒に寝ようと私を誘っているのか！？魔法使いが私と同じガチホモだということは確認できた。しかし、そもそもこのパーティーに入ったのは勇者を抱くためだ。それにもかかわらず、魔法使いは攻めだ。私は攻められるのは馴れていないし、初志貫徹を貫くべきだろうか…。悩む。ああ、勇者よ！君と魔法使いの間で心が揺れる優柔不断な私を許しておくれ…。

パーティーメンバーの年齢

勇者 16歳

魔法使い 16歳

僧侶 21歳

戦士
35歳

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7322y/>

勇者一行旅日記

2011年11月24日10時03分発行